

栄光

説教・ 「礼拝する私たち」 岸俊彦牧師……1
特集・私の好きな クリスマスソング…2
召天者記念礼拝 報告……………5
説教・「私たちに約束 されている栄光」 種房惇子教師…6
CS 収穫感謝日 報告……………7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

『礼拝する私たち』

創世記1章1節～5節

ヨハネの黙示録4章1節～11節

岸 俊彦牧師

説教

「ここへ上つて来なさい。そうすれば、この後必ず起こることをあなたに示そう」（4：1）。

黙示録の著者ヨハネが、エーゲ海に浮かぶパトモス島で主の日に礼拝していた時、天を見上げてこの主の御声を聞きました。彼はキリストの福音を伝えたことで迫害され、捕らえられ、島流しになっていました。困難な中でも主日礼拝を守りました。困難だったからこそ礼拝を守り続けました。天を見上げ、主の御声を聞いて、慰められ、励まされ、忍耐し、鍛えられ、希望を持つためです。

ヨハネが見たのは、世界の終わりについての幻です。この世界が最後どうなるのか。その最後に向かって私たちはどうしたらよいのか

か。私たちがこれから歩むべき道と課題とを問う幻です。

まずヨハネが見たものは、天の玉座に座っている御方です。私たちが見たこともない宝石のような輝きに包まれていました。稲妻、轟音、雷鳴が鳴り響いていました。「のよう」と表現するしかない御方です。私たちが見ることに、聞くこと、心に思うことをはるかに超えている御方です。

天の玉座の周りには、白い衣を着て、金の冠を被った24人の長老が座っています。さらに4つの生き物もいます。「獅子のよう」「若い雄牛のよう」「人間のような顔を持ち」「空を飛ぶ鷲のよう」だと表現されます。私たちが天の上のことは計り知れないので、い

ずれも「のよう」だと伝えるしかありません。

それぞれ、両面目だらけの6つの翼をもって飛び回る4つの生き物は、世の終わりに次々と起こる出来事の開始を告げます。世界の終わりの全てを、天を飛ぶ回って見届けるのです。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな／全能者である神、主」（8節）と、4つの生き物が見て、主をほめたたえました。グロテスクにも思える4つの生き物は、怪獣が町を踏みつぶすようなことをするのでありません。今私たちが礼拝しているように、主を礼拝しているのです。

白い衣を着て、金の冠を被った24人の長老も主を礼拝します。この世界を創造され、治め、導かれる主を賛美します。

1世紀の終わり、地中海世界にはローマの平和が実現していました。時の皇帝はドミティアヌスでした。彼こそ「全能者である神、主」と頌えられました。私たちが見たこともない宝石を皇帝は身につけていたことでしょう。皇帝を頌える神殿が地中海世界の各地に建て

られました。

ヨハネは天の幻を見ます。目には見えないものをなお望み見ます。天の4つの生き物にとっても、24人の長老にとっても、天で玉座に座している御方こそ、「全能者である神、主」だからです。

混乱するこの地上で、毎日の暮らしの中で私たちが見失っているのは真の主です。主の摂理です。主イエス・キリストが、私たちに示してくださった御方です。天と地が一つとなって礼拝している御方こそ、万物の創造主、私たちの造り主、天にある私たちの家族を愛し、この世界と私たちを愛し、その御手にしっかりとらえてくださっている主です。

主が私たちに礼拝に招いてくださいました。主を思い起こすために、私たちは礼拝します。どのような時も、生きる時も死ぬ時も、死の先も、主の御手が私たちを捕らえてくださっています。

島流しとなったヨハネを捕らえているのは、皇帝でも、ローマ帝国でもありません。主が捕らえてくださっています。私たちは主のものです。（召天者記念礼拝）



私の好きなクリスマスソング

12月になると街には沢山のクリスマスソングが流れて
クリスマスを待ち望む気持ちが高まってきます
あなたの好きなクリスマスソングを教えてください



私の好きなクリスマスソング

阿片美鶴穂

サンタクロースの櫓を引いている9頭のトナカイ、そのそれぞれに名前があるの知ってますか？それは、ダッシュヤー、ダンサー、プランサー、ヴェイクセン、コメツツェン、そして先頭は、ルドルフ。皆さん知ってる「赤鼻のトナカイ」ルドルフなのです。

赤い鼻が嫌でいつも泣いていたルドルフは、サンタのおじさんにお前の赤い鼻は暗い夜道を照らして役に立つと言われ、張り切って、先頭で走っているのです。私はこの歌「赤鼻のトナカイ」が可愛くて面白くて、一番好きなクリスマスソングなのです。

12月になりクリスマスソングを歌うと、子どもの頃のクリスマスをお思い出します。子どもと遊ぶのが好きな父は、枯枝に白いペンキを塗って組立て、赤や緑色にピカピカ光る電球を巻き付け、私は折

紙で輪をつなげ、母は金貨のチョコレートで針で穴をあけて吊るし、祖母は白い綿を雪のように置き、丸いバターケーキにろうそくを立て、「ジングルベル」や「きよしこの夜」を歌い、イエスさまの御誕生をお祝いしました。「煙突が無いから窓を少し開けておいて」と、靴下を吊して布団に入る。次の朝、キャラメルとみかんだけのサンタさんのプレゼントに、大喜びのクリスマスでした。

あの頃、貧しかったけれど、皆、希望に溢れて楽しかったような気がします。戦争が終わって皆、ホッとしていたのかも。ついこの間までは敵として戦っていた国の行事をお祝いする不思議？ 私の父は戦争で7年間も帰らず、シベリアに抑留され、さぞや苦労したろうに、ニコニコしていました。辛かった戦争がやっと終わり、日本中の人々が笑顔を取り戻し、平和に向って歩み始めたのでしよう。世界中仲良くしたいですね。

今年も私は、老人ホーム訪問で沢山のクリスマスソングを歌います。私はクリスマスソングはどれも、大好きなのです。

私とクリスマスソング

荒井貴代子

鮮やかなボインセチアが街を彩る季節となりました。クリスマスソングがその雰囲気盛り上げています。この頃になると誰でもクリスマス之歌を歌いたくなりません。

初めて私が耳にしたクリスマス之歌は「諸人こそぞりて」でした。戦後の街は荒れ果て、人々は疲れていました。「主は来ませり」と繰り返す言葉と旋律は心地良く、何か良い事が待っているようで明るい気分になったものでした。

「聖しこの夜」は母の介護に行き、いつも妹たちと一緒に歌いました。歌の得意な母は嬉しそうに一緒に歌っていました。

年末恒例の「メサイア」は毎年楽しみにしているコンサートです。そしてどうしても触れずにはられないのが「マタイ受難曲」です。十年ぐらい前に合唱に参加して忘れられない曲となりました。

コーラルは讚美歌136番「血潮したたる…」の旋律が場面ごとに何度も歌われます。過越の祭の温かく楽しい食卓の風景は長調で。捕らえられ十字架を背負うイエスの姿は短調で。

「十字架につける」と叫ぶ群衆のどよめき切迫した瞬間も歌われます。最終は *rüh'ig sanfte* (ゆっくりお眠りください)。

悼み、祈り、赦し、何か懐かしさすら覚えます。

悲しみ苦しみの多い世の中ですが、街角で聞こえるクリスマスソングも、教会で歌う讚美歌も、誰の胸にも温かい光となって、良い時も悪い時もずっと歌い継がれていくでしょう。

今年もたくさんさんのクリスマスソングを歌いたいと思っています。

合唱が好き

遠藤路得子

私の父は牧師だった。父は歌うことが好きだった。礼拝(20人弱の)ではいつも、父が大きな声で讚美歌を歌っていたので、私も大きな声で歌った。幼稚園の時、クリスマスではマリアになり、人形(イエス様)を抱いて大きな声で歌ったが、曲は忘れた。しかし一人で歌うより、どちらかと言うと合わせて歌う方が好きだ。

昭和23年頃、毎晩停電になると、父の勧めで家族7人が(弟は小さかったが)次々と讚美歌だけでなく、小さい家で大きな声で歌っていた。当時、焼け出された広島女学院の職員家族のために家を用意してくださいました。その家族が集まり、クリスマス礼拝を行った折、私の家族は讚美歌をコーラスした。

中高では合唱部で歌ってばかりいた。クリスマスには3人の博士の1人に選ばれ、会場の後方から

2編52番を歌いながら入場した。私の声が「大きかったよ」と友達にからかわれたのを覚えている。私はきょうだい5人だったので、クリスマスにはそれぞれの友達に来て、キャロリングの後には会堂の椅子を向かい合わせて沢山歌った後、そのベッド代わりの椅子で夜を明かしたのも楽しい思い出だ。

その後、東京に住み込みで働きに来た年のクリスマスは、近くの教会の方のキャロリングの声を聞いて、涙が止まらなかった！その数年後、経堂北教会に招かれて直ぐ聖歌隊に入れていただき、現在までほぼ人生の半分はお世話になっている。それぞれの合唱の場での指導者の方々には感謝である。

合わせて歌うことが好きになったのは、やはり父のお陰だと思っている。そしてコロナ禍にあっても、毎週欠かさず礼拝が続けられ、マスクありでも讚美歌を歌わせていただいていることは感謝だ。後は聖歌隊として合唱できる日が来ることを祈り、クリスマスを賛美できるのを楽しみにしている。



私の好きなクリスマス歌

岡本直美

60数年前私の中学進学にあたり、私は女子校、祖母は徒歩通学（我が家では祖母の力が一番強かった）という両者の条件が一致する学校が、歩いて5分程の所にあるキリスト教主義の学校でした。当時はさほど受験勉強もせず入学式を迎えました。その年は4月にイースターがありました。今のようにならぬに商業的にはなつていなかった。今のようにイースターという言葉が初めて耳にしたように覚えています。その後、母の日、花の日礼拝と続き、11月には感謝祭がありました。講堂に一步足を踏み入れると、壇上には黒い幕が張られ、落ち葉で色どりよく英語で「サンクス・ギビングデー」と書かれ、その前には各自家庭から持ち寄った野菜や果物が形よく飾られています。今まで見たこともない光景にただただビックリしたことを今でもよく覚えています。

この頃から礼拝では待降の讚美歌が歌われ、音楽の時間には生徒全員で合唱するハレルヤコーラスの練習が始まります。あまりよく覚えていませんが、降誕日より少し前から降誕の歌も歌われていたように思います。

私の記憶に鮮明に刻まれているのは106番「あら野のはてに夕日はおちて」。リズムカルでテンポよく、今までに聞いたことのない言葉「インエクセルシデオ」の意味もわからず私の好きな曲になりました。今のようにクリスマスソングが巷に流れている時代ではなく、日本人にとっては、お正月が大切な行事でした。学校で歌うクリスマス歌はどれも新鮮で、好きな曲はたくさんあります。孫がまだよくわからない口で「インエクセルシデオ」と歌っていたのを微笑ましく感無量で聞いていました。その孫も神様の導きにより同じ中学に通っていることを感謝いたします。

今年もクリスマス迄残すところ、あと僅かになりました。3時のおやつタイムにクッキーとアイルグレイの紅茶を飲みながら、私の好きな歌はとクリスマスメドレーのCDを掛け、この曲も讚美歌にあるなど、未だ日の浅いクリスマスチャンの私は感心してしまいます。クリスマス歌は全部と言って良い程好きで選ぶのが難しいです。シナトラ、ナット・キング・コール、プレスリーたちの歌を聞くと若かりし頃の自分を懐かしく思い出して未だに聞いています。クリスマスには街中に賑やかな「ジングルベル」が流れ、恋人同士や家族連れの姿を横目に見ながら寒空の中、仕事を終えた私は女友達と家の近くの恵比寿で食事したものでした。その時の心境はプレスリーの「ブルー・クリスマス」の歌がぴったりで今でも大好きな曲の一つです。

田中延子

私の好きなクリスマスソング

それが20年前に暉通さんと一緒に、教会で思い切り讚美歌を歌うようになりました。私がクリスチャンになったというところで、毎年12月になると友人がクリスマスグッズをプレゼントしてくれました。陶製の小さなクリブ、イルミネーションの鮮やかなツリー、ベルギー製の顔の怖いサンタクロース等です。

頂いた中で50センチ位のサンタ人形のスイッチを入れると、「ジングルベルロック」を歌います。と同時にサンタが腰を振り、その動きに合わせて自分も自然と身体が動いてしまいます。

教会では12月3日のアドベントから12月24日のクリスマスイブ礼拝まで「あめには栄え」、「あめなる神には」、「もろびとこぞりて」等、聞き慣れ歌い慣れた讚美歌を思う存分歌い、心が洗われるような気持ちになれます。教会も以前のような日常に早く戻れることを期待しています。

クリスマスの夜は一番好きなシナトラの「ホワイト・クリスマス」を聴きながら、大人しく過すつもりです。

召天者記念礼拝報告

経堂北教会の思い出

青木幸子

「あ、幸子ー」
 「岸先生、ご無沙汰してます」
 「元氣ー？ そうだつ、原稿書いて」
 「ちよつ、勘弁してくださいー」
 「いいからいいから。たまには役に立てー」

数年ぶりに訪れた経堂北教会で、召天者記念礼拝の前にバツタリ会つた岸先生との会話。昔から変わらないぶつさらばうな雰囲気が懐かしく、私はちよつと嬉しい。
 3歳から家族で通っていたこの教会で、岸先生は私たちが中高生の時に担当してくださいました。当時は、私が若気の至りでやらかした数々の出来事に「幸子、バカだなー(笑)」と率直にやり取りが出来る楽しい時代でした。今では子どもが少なく聞きますが、昔は部屋いっぱい子どもたちが集まり、夏季合宿やクリスマス・ミュージカルはもはや部活動のようでした。教会学校での幸せな思い出はつと心に残っています。
 兄たちは、教会に残り夜遅くま

で地下室で卓球をして四竈先生によく怒られていました。両親についても、私たちがお腹を空かせて待つているのに、いつまでも帰ってこないで、村田宅に迎えに行くと「幸子、あなたも上がってひとついただきなさい」となり、思い起こしてみると今よりずっと人とくつろげる時代でした。

現在、2人の息子も独立して幸いにして3人の孫に恵まれました。周りの小さな子どもたちを見て思うのですが、きちんとしてお行儀も良い、だけど相手と心をかよわすコミュニケーション力が弱くなっていると感じます。子ども同士ですらお宅に上がって遊び合うことは減りました。もつと、家族以外の人たち、地域の人も気兼ねなく心を許し合いながら親しく付き合えるようになってほしいな、とちよつと思えます。

来年度で岸先生が辞任されると、父の杉本正和から聞きました。何とも寂しいです。岸先生ご夫妻には長年大変お世話になりました。心より感謝いたします。これからご夫妻のご健康とご多幸をお祈りいたします。

信仰の種

榎原 泉

11月5日、例年通り召天者記念礼拝に出席しました。

今年はコロナも5類となり、午前午後を分けず、皆で祈りを共にすることができました。

例年と違うのは、隣に母がいなかったことくらいです。礼拝堂の3方の壁には沢山の人の写真が並んで掛かり、その中には曾祖父から始まり親戚のほとんどがいて、大好きな人たちみんなに見守られながらの礼拝です。今年から母もそこに加わりました。

母は、いつも私に「神様がいてくださるから大丈夫」と言ってくれました。ちよつとした自慢話も、くだらない愚痴も聞いてくれた母でした。

今年の1月に病気が分り、治る見込みがないとなったときも、「今までずっと幸せだったから、特別な治療はしなくていい、あとは神様にお任せする」と。いさぎよいと言うか、信仰つて凄いなものだな、と思いました。

亡くなる前の日に「泉がいて良かった。神様のおかげ、産んで良

かった。ありがとう」と改めて言われたときは、照れくさいのと胸が詰まってしまい「まーね」としか返せなかったけれど、最後の最期まで「信仰の種」を蒔きつづけてくれたのだと思います。
 月日が経ち、少しずつ生活も、気持ちも落ち着いてきましたが、道に咲く草花を見ては、ふと思いついてさみしい気持ちになります。そんな時は「神様がいてくださるから大丈夫」を思い出して、蒔かれた種に水をあげています。



説教

『私達に約束されている栄光』

ローマの信徒への手紙8章18節～30節

種房惇子

パウロはローマの信徒への手紙8・18以下で私達がキリストと共同の相続人にされた恵みの内容について言及します。私達が罪と死から解放され神の子とされ、終末の時、終わりの日に私達に齎される栄光という終末論的、救済論的視点から神の恵みについて力強く語ります。「見よ、私は新しい天と新しい地を創造する」(イザヤ65・17)を引用し、今の私達の時代と来たるべき新しい時代とを分けて、主の終末の裁きの到来時には罪、悪、死は根底から打ち砕かれ新しい世界が展開するのであり、現在の苦しみは、将来、私達に現される筈の栄光と比べれば、取るに足らないと説くのです。

神は天地万物を善いものとして創造されましたが、アダムとエバの墮落によって罪がこの世に入り、人間も他の被造物にも腐敗が齎されました。神は、御子の十字架によって私達に罪の赦しを与え

られました。罪の結果である死までも滅ぼし、私達を神の子とし、キリストと共同の相続人にしてくださったのです。私たちは相続人であり、神の子とされましたが、その身分が明白になるのはこれから先のことですが、それを確信しているから「今この時の苦しみは、将来私たちに現されるはずの栄光と比べれば、取るに足らない」と断言できるのです。ただ神のご計画と御旨を信じて「虚無に服し」「ただ待ち望む」ことができるのです。私たちの目の前には、暴力があり、差別があり、格差があり、戦争もテロもあります。憎しみや、冷え切った心があり、自然も牙をむいて襲ってきます。私たちは絶望的な現実を前にしても、神の救いの計画と御業を信じているから希望を失うことは無いのです。キリスト者がいま経験する苦しみを遙かに超える将来の栄光が約束されているから、栄光の保証

を固く信じながら終末に至るまで地上にあって忍耐強く神の国での約束を待つのです。私たちは、内的には自己の悪しき人間性と戦いながら、外的には死と腐敗の世に生きなければなりません。しかしながらキリスト者は、この世に生きると同時にキリストの内に生きるのです。この世を超えて神に目を向け、人間の罪の結果だけを見るのではなく、神の憐れみと愛の力を見るのです。ですからキリスト者の生活の基盤は、絶望ではなく希望なのです。死ではなく永遠の命への希望なのです。キリスト者は、地上をさすらいつつ天上に生き、「悲しんでいるようであり、常に喜び、貧しいようであり、多くの人を富ませ、何も持たないようであり、すべてのものを所有しています」(2コリ6・10)との逆説の中に生きているのです。現在の試練や困難を、信仰の完成への道筋として、積極的に受け止めるのが信仰なのです。

26節以下で栄光への希望と望みを語る終末論は、聖霊の執り成しを背景にしていると述べます。私たちがどう祈るべきかを知らない

時に「霊」自らが言葉に表せない切なる呻きをもって、その祈りを神に取り次いでくださいます。貧しい言葉で献げられる人間の祈りを、聖なる栄光の神に相応しい言葉をもって、神の前に執り成ししてくれるのです。28節で「神を愛する者たち」と呼びかけ、私たちが神を愛して「アバ父よ」と呼びかける時に、御霊が共に働いて神が共にいて神を愛する人達に、神のご計画によって全てが益となるように取り計らってくださいます。神の御旨に全てを委ねてすがり、自らを開け放つて神の恵みをいただくのです。その時に神の憐れみを受け、共に苦しまれる神を知り、その恵みに感謝し、主をほめ讃えるようにされ、心に平安が齎されます。キリストと共に生きるとは、そのような希望に満たされ、喜んで主を賛美しつつ生きることです。そして終りの日に、この世の苦しみを遙かに超えた栄光が私たちを迎えてくれるのです。全てに勝利された神様の下で永遠の平安を得るのです。それが「私達に約束されている栄光」の御言葉の意味なのです。

CS収穫感謝日報告

私がCSに携わるようになってから2回目の収穫感謝日でした。今年は私とヘルパーの風間洗さんで担当しました。収穫感謝日担当教師の主な仕事内容は、さつまいもなどの調達と、当日子どもたちに収穫感謝日についての説明をすることです。

当日の朝8時にCS教師は集まり、お芋や炭の準備を始めます。今年のメニューは例年通りさつまいもとじゃが芋ですが、中でもさつまいもはシルクスイートという高級で大きく、甘いものを選びました。礼拝中の火の番は、こちらもまた例年通り重藤直樹兄にお願いしました。

礼拝が終わると、子どもたちも普段とは違う分級の雰囲気にもソワソワし始めます。子どもたちに「収穫感謝日はどんな日かな?」と問いかけると毎年必ず「お芋を食べる日!」と返ってきます。今年も期待通りの答が第一声となりました。収穫感謝日についての説明をしていると、日々の糧を祈り、与えられた食材に感謝する教えに改

めて気付かされます。咄嗟にそのことも付け加えて子どもたちに伝えました。

さて、いざ実食です。重藤兄のお陰でとても美味しくホクホクのお芋たちが完成しました。感染症への懸念から、残念ながらその場で食べている顔を見ることはできませんでしたが、その出来はきつと子どもたちも保護者の方々も喜んでくれたと思います。来週みんなに感想を聞くのが楽しみです。

神様とイエス様は私たちに、先々の食事ではなく「今日一日の食事だけを祈り求めなさい」と言われました。収穫感謝日はそのことを思い出させてくれる日です。神様とイエス様が私たちに与えてくださる日々の恵みに感謝します。(牧内 歩)



長老のファイル

今年の召天者記念礼拝は4年ぶりの通常礼拝となり、178名の方が出席、掲額された346名の信仰の先達の写真に囲まれ、豊かに守ることができ、非常にうれしく感謝でした。以前は礼拝堂に補助椅子を並べるほどの出席者数だったことを思えば178名は少なくなったと言えます。それでも出席者で一杯の礼拝堂を久しぶりに見て感慨深い思いがしました。

合同礼拝は中村謙一先生に説教していただき、こどもさんびかを懐かしく思いながら歌いました。幼児祝福式は5名の学齢前の子どもたちが祝福を受けました。教会員のお子さん・お孫さんだけでなく、教会学校の生徒も一緒に祝福を受け、私たちが皆が神様に繋がっている家族なのだ改めて実感し、子どもたちが主に守られ健やかに成長するように共に祈りました。

ミニバザーは2回開催し、今年も召天者記念礼拝出席者の方々に好評でした。バザー献金は昨年度を上回る金額を献げていただき、

売上含め収益が昨年度を超えました。皆様に感謝申し上げます。長老会で協議し、ベルリン日本語教会を含む8団体に各4万円お送りしました。また毛糸で作った冬物等があるので、12月17日に3回目のミニバザーを開催する予定です。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

私は教会の財務を担当しています。10月の月報に掲載の会計報告にある通り、今年度上半期(4月(9月)が終わった時点で経常会計収入が1千万円を切りました。高齢化が進み、病気などの理由で教会員の礼拝出席が減っていることが収入減少の一番の要因と思われます。支出が抑えられているため現時点で収支は赤字になっていませんが、予算達成は厳しい状況であると言わざるを得ません。岸牧師の後任の牧師をお迎えする準備期間として、今年度と来年度は財政含めいろいろな意味で重要です。物価が高止まり、生活面で苦しい状況が続いていますが、経常会計収入の2本柱である月定献金・礼拝献金をよろしく願っています。(尾藤美紗子)

牧師の書齋から

11月25日、関東教区の按手札が大宮教会で行われました。大宮教会に行ったのは、2007年木村太郎牧師の按手札以来です。道路の拡張工事に引っかけり、大宮教会が新しく建てかえられたことを聞いていたので、見てみたいと思っていました。道路沿いに立つ教会は以前より一回り小さくなっていましたが、尖った屋根の先端に十字架が立ち、その下にカリヨン

が下がるとも立派な会堂でした。もちろん、会堂見学が目的ではありません。東中通教会の片岡賢蔵伝道師が按手を受領するからです。2007年4月に片岡宝子伝道師就任にもなつて経堂北教会に転会してきました。その後、牧師となった宝子先生の鎌倉泉水教会転任にもなつて転会しました。2017年に神学校に入学したことを知らされた時は、ご夫妻で伝道するのが一番よいと思つたので嬉しいことでした。20年の神学校日には説教をお願い

しました。礼拝よりかなり早く来て、会堂で一人、説教の練習をしていたのが印象的です。最も有名な「サマリア人の譬え」の説教だったこともよく覚えています。翌年神学校を卒業すると、ご夫妻で東中通教会に赴任しました。宝子先生とは教団総会で2度夕食をご一緒しました。

の恵みの不思議さに感謝するばかりです。来年度には月に1度、何人かの先生方に説教をお願いできればと考えています。実は、賢蔵先生はコロナに感染してこの日は欠席となりました。後日東中通教会で関東教区三役が向いて改めて按手札を行うとのことです。

関東教区の大勢の牧師が、若い3人の教師に按手しました。その中に加えられ、3人の感謝と決意を聞くことができたことは、胸が熱くなる経験でした。(岸 俊彦)

個人消息



掲示板



- アドベント 12月3日(日)
- 待降節第2主日礼拝
12月10日(日) 午前10:15
説教「試練を逃れる道」1コリント10:13-22
松谷祐二牧師(麻布南部坂教会)
- クリスマス礼拝 12月24日(日) 午前10:15
説教「御子イエスの誕生」ルカ2:1-20 岸 牧師
- クリスマス・イブ礼拝
12月24日(日) 午後5:00
説教「暗闇に輝く光」ヨハネ1:1-4 岸 牧師
- 歳晩礼拝 12月31日(日) 午前10:15
説教 久保哲哉教師
- 西南支区新年礼拝
1月1日(月) 午後2:00 霊南坂教会
説教「真理は自由を得させる」岸 俊彦牧師
イザヤ6:9-10、使徒28:17-31

編集後記



▽紛争が続いているなかでのクリスマス。平和を切に祈ります。(酒井)

「栄 光」2023年12月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp